公益財団法人
日本アジア医療看護育成会
JAMNA

発行元：公益財団法人日本アジア医療看護育成会 JAMNA
発行住所：〒454-0932 名古屋市中川区中島新町三丁目2518番地 ミライカビル4階

日本アジア医療看護育成会からの活動トピックス

2026年7月号

ハートフルナース

高齢社会を迎えるインドネシアへ
JAMNA講演会 in Universitas 'Aisyiyah Yogyakarta
――地域と家族を支える健康長寿ケアを考える――

2026年5月22日（金）、インドネシア・ジョグジャカルタ特別州スレマン県にあるアイシヤ大学講堂にて、当法人による医療講演会を開催しました。

アイシヤ大学は、インドネシアのイスラム系女性団体「アイシヤ」を母体とする私立大学であり、助産・看護教育を起点に発展してきた歴史を持つ大学です。現在は保健科学部、経済・社会・人文学部、科学技術学部、医学部を有し、20の学科・課程を展開しています。保健医療分野において高い評価を受けており、多くの看護師、助産師、理学療法士を輩出しています。

講演会は、保健科学副学部長であり理学療法学科教授のワントノ口氏による歓迎の挨拶で幕を開けました。

その後、当法人事務局長の岩本充晃が挨拶を行い、「地域と家族を支える健康長寿ケア―糖尿病・高血圧予防からフレイル、認知症支援まで―」をテーマとして講演会が開催されました。

当日は看護学生、助産学生、理学療法学生を中心に328名が参加し、会場は終始熱気に包まれました。

歓迎挨拶の様子

冒頭挨拶の様子

現在、インドネシアは約2億8,000万人の人口を抱える世界第4位の人口大国です。一方で、高齢者人口も着実に増加しており、今後は日本が経験してきた高齢化社会への移行が進むと予測されています。生活習慣病の増加に加え、フレイルや認知症など高齢者特有の健康課題への対応が求められており、予防から介護までを見据えた包括的なケア体制の構築が重要な課題となっています。

「糖尿病と高血圧に対する運動療法 ―予防と継続のための実践アプローチ―」
講演者　森山 善文氏

第1演題では、今回お招きした外部講師で健康運動指導士の森山善文氏が「糖尿病と高血圧に対する運動療法―予防と継続のための実践アプローチ―」について講演しました。

インドネシアでは糖尿病患者が約1,950万人、高血圧患者が2,400万人を超えるとされ、生活習慣病は国民の健康に大きな影響を及ぼしています。森山氏は「Exercise is Medicine（運動は薬）」という考え方を紹介し、運動が血糖値や血圧の改善に与える効果を科学的根拠とともに解説しました。

また、FITT（頻度・強度・時間・種類）の考え方を用いた運動プログラムの作成方法や、日常生活の中で継続できる運動療法について紹介し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

（裏面へ続く）

第1部の様子

「高齢者の機能低下を防ぐ ―フレイルの理解・評価・多職種介入―」

講演者　中野晴香氏

第2演題では、同じく外部講師で理学療法士の中野晴香氏が「高齢者の機能低下を防ぐ―フレイルの理解・評価・多職種介入―」について講演しました。中野氏は、フレイルを「健康と要介護状態の中間にある可逆的な状態」と説明し、身体的・心理的・社会的フレイルの3つの側面から理解する重要性を紹介しました。

また、フレイル評価方法や、運動・栄養・社会参加の3本柱による介入の必要性について説明し、「適切な支援があればフレイルは改善できる」というメッセージを参加者へ伝えました。

第2部の様子

「認知症の早期発見と支援 ―高齢者と家族を支える看護の視点から―」

講演者　熊澤和秀

第3演題では、当法人職員で看護師の熊澤和秀が「認知症の早期発見と支援―高齢者と家族を支える看護の視点から―」について講演しました。

講演では、インドネシアの認知症患者数が今後大幅に増加すると予測されている現状を紹介し、認知症の4大分類（アルツハイマー型、血管性、レビー小体型、前頭側頭型）や特徴的な初期症状について解説しました。

第3部の様子

また、認知症の早期発見の重要性や、本人だけでなく家族を含めた支援の必要性について看護師の立場から説明し、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続するための支援について理解を深めました。

「高齢社会における健康長寿とQOL向上のための介護ケアの必要性」

講演者　Prof. Ns. Wantonoro 氏

続く第4演題では、アイシヤ大学のワントノロ氏が「高齢社会における健康長寿とQOL向上のための介護ケアの必要性」をテーマに講演しました。

ワントノロ氏は、インドネシアにおいても高齢者人口の増加に伴い、介護ケアの重要性が急速に高まっていることを説明しました。特に、高齢者の生活の質（QOL）を維持するためには、医療だけでなく、日常生活を支える介護ケアや家族支援、地域社会の協力が不可欠であることを強調しました。また、日本の介護制度や高齢者支援の取り組みにも触れながら、インドネシアにおける今後の介護人材育成や地域包括ケアの発展への期待を語られました。

質疑応答では、学生や教員から多くの質問が寄せられ、日本の高齢者ケアや予防医療、多職種連携に対する関心の高さがうかがえました。会場では講演終了後も講師への質問が続き、活発な学術交流の場となりました。

今回のセミナーは、生活習慣病予防からフレイル、認知症、介護ケアまで、高齢社会に必要な知識を包括的に学ぶ貴重な機会となりました。また、日本とインドネシアの専門家がそれぞれの立場から知見を共有することで、両国の高齢者支援の発展につながる有意義な交流の場となりました。当法人では今後も、医療・看護・介護分野における国際交流と人材育成を推進し、アジア地域の健康長寿社会の実現に貢献してまいります。

会場の様子

公益財団法人
日本アジア医療看護育成会
JAMNA